

都市再生整備計画 事後評価シート
国立駅周辺地区

令和3年2月

東京都国立市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	東京都		市町村名	国立市		地区名	国立駅周辺地区			面積	18.9ha		
交付期間	平成27年度～平成31年度		事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	1761.2百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	自転車駐車場整備、観光交流センター整備、地域交流センター整備										
		提案事業	旧国立駅舎再築事業(展示スペース)の整備										
	当初計画から削除した事業	事業名					削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		基幹事業											
		提案事業	国立駅周辺地区事後評価					指標の確認する作業を市職員が独自に実施するため。			影響なし		
新たに追加した事業		基幹事業											
交付期間の変更	当初						交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響						
	変更												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	市の歴史や魅力に関連した商品の種類	個	33	H26	37	H31	-	42	○	あり	旧国立駅舎を再築することで、市の魅力ある商品の販売促進や、新たな商品開発につながった。また、旧国立駅舎内の「まち案内所」での販売が、まちの魅力発信となるため、新たな商品が生まれた。	-
											なし		
	指標2	自転車の放置率	%	1.8	H26	1.5	H31	-	0.2	○	あり	事業により南口第1自転車駐車場の収容台数は1620台から2605台に増加した。放置自転車対策の啓発活動との相乗効果により国立駅周辺の放置自転車台数は大きく減らすことができた。	-
											なし		
	指標3	市民交流を目的にしたイベント回数	回	0	H26	12	H31	-	25	○	あり	旧国立駅舎および高架下市民利用施設の建設による市民交流の場や市民生活・活動を支える施設ができたことで、新たなイベントの開催につながった。	-
なし													
指標4										あり			
指標5										あり			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況						今後の対応方針等			
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	駅前報告会を実施		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						● 今後も事業の進捗状況を含めて年1回程度実施していく。			
	持続的なまちづくり体制の構築	旧国立駅舎運営連絡会		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						● 継続的に開催し、持続的なまちづくり体制を推進していく。			

様式2-2 地区の概要

国立駅周辺地区(東京都国立市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
気軽に憩い、交流することで活気を生み、歴史や地域の魅力を市内外に発信し、景観を大切にしたい国立らしさに溢れたまちを実現する。	市の歴史や魅力に関連した商品の種類	単位: 33 H26	37 H31	42 R2
	自転車の放置率	単位: 1.8 H26	1.5 H31	0.2 R2
	市民交流を目的としたイベント回数	単位: 0 H26	12 H31	25 R2

提案事業

- 地域創造支援事業(旧国立駅舎再築事業(展示スペース))

基幹事業

- 高次都市施設
- 観光交流センター(旧国立駅再築事業(観光交流センター))

関連事業

- 旧国立駅舎再築事業
- 緑道整備 鉄道線研線跡地
- JR中央線連続立体交差事業国立線中付1号線、2号線
- JR中央線連続立体交差事業
- 道路整備 市道西1条線延伸部分
- 国立駅南口複合公共施設整備
- 道路整備 市道西第1条線
- 道路整備 市道西第1号線

関連事業

- 道路事業 市道北第1号線(北口駅広)
- 道路事業 市道北第1号線
- 広場整備(北口ポケットパーク整備事業)
- 高次都市施設
- 地域交流センター(高架下市民利用施設整備事業)
- 行政窓口施設 図書貸出施設等整備
- 道路事業 市道東第1号線
- 道路整備 市道東第2号線
- 街路事業 市道北第4号線1
- 道路整備 市道東第3号線
- 道路整備 市道旭通り第1号線(南口駅広)

凡例

- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業

まちの課題の変化	<p>更なる地域の魅力発信やにぎわいを創出する、または持続させるために、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①どのような施策やイベントを推進してか。 ②行政と市民や市民団体が協同して、まちの魅力の向上を図ることができるか。 ③完成した施設をどのように上手く活用していくか。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・国立駅前にたち市民プラザを活用して、市民交流を目的として市民や来訪者が気軽に憩い、楽しみが享受できるイベントなどを実施することで、新たな交流機会の創出や市民生活の充実を図っていく。 ・市のシンボルとして復元された旧国立駅舎を活用して、人々の憩いの場を提供することや、まちの魅力等の情報発信、イベントなどを行っていくことで、にぎわいの創出する。 ・矢川・谷保・富士見台などの地域との繋がりを強化して、国立市全体を回遊に結びつような施策やイベントを実施する。 ・国立駅周辺の交通体系を変更することで国立駅前の通過交通を低減させ、歩道は誰もが安全・安心に通行できるようにすることで、にぎわいのある広くて快適な歩行空間を目指す。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	国立駅南第1自転車駐車場	1,159.0	自転車駐車場の整備	1,014.0	自転車駐車場の整備	事業費が確定したため	影響なし	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設	旧国立駅舎再築事業	321.0	観光交流センターの整備	450.9	観光交流センターの整備	事業費が確定したため	影響なし	●	
高次都市施設	高架下市民利用施設整備事業	67.0	地域交流施設の整備	49.6	地域交流施設の整備	事業費が確定したため	影響なし	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	旧国立駅舎再築事業(展示スペース)	201.0	観光交流センター内に展示スペースを整備	246.7	観光交流センター内に展示スペースを整備	事業費が確定したため	影響なし	●	
事業活用調査	国立駅周辺地区事後評価	5.0	国立周辺地区事後評価	0.0	—	指標の確認のための事業活用調査を市職員で実施するため平成31年に削除	影響なし	●	
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
	-							
	-							
	-							

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし		
指標1	市の歴史や魅力に関する商品の種類	個	くにたちStyle認定商品及び旧国立駅舎関連商品を計測した。	-		33	H26	37	H31	モニタリング	H31		モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	42	事後評価	○		
指標2	自転車放置率	%	地区における自転車等の放置率を都発行の統計資料である「駅前放置自転車の現況と対策」をもとに自転車放置率を計測した。	-		1.8	H26	1.5	H31	モニタリング	H31		モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	0.2	事後評価	○		
指標3	市民交流を目的にしたイベント	回	地区内の交流スペース、会議施設等で行われる市民交流を目的としたイベントの回数を計測した。	-		0	H26	12	H31	モニタリング	H31		モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	25	事後評価	○		
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	市の魅力ある商品の販売の種類が、33種類から42種類へと増やすことができた。	
指標2	国立駅周辺の放置自転車台数が大きく減少した。	
指標3	市民交流を目的にした新たなイベント開催につながった。今後、旧国立駅舎が活用されるとさらに増える見込み。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 単位)	(参考)※1 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準	基準	基準	基準					
その他の 数値指標1	なし						モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
国立駅周辺まちづくり駅前報告会	予定どおり実施した	実施頻度 毎年度1回程度 実施時期 平成27年7月、平成28年10月、平成29年7月、 平成30年2月、平成30年6月、令和元年8月 実施結果 国立駅周辺整備事業の全体計画や各事業の整備計画などを 広く周知するため実施した。	今後も事業の進捗状況含めて年1回程度実施していく。
	予定はなかったが実施した ●		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名: 組織の概要	
旧国立駅舎運営連絡会	予定どおり実施した	旧国立駅舎の適正な管理運営を図るとともに、旧国立駅舎を拠点として魅力あるまちづくりを推進していく。	旧国立駅舎運営連絡会: 市内在住者、学識経験者、商工観光業や地域活動する者、文化芸術の知見を有する者等の12人以内で組織。	継続的に開催し、持続的なまちづくり体制を推進していく。
	予定はなかったが実施した ●			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
国立駅周辺地区都市再生整備計画事後評価庁内検討会	関係各課係長級職員(国立駅周辺整備課、道路交通課、まちの振興課)	令和2年8月14日	国立駅周辺整備課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3	指標〇
指標名		市の歴史や魅力に関連した商品の種類	自転車放置率	市民交流を目的にしたイベント回数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	国立駅南第1自転車駐車場	-	旧国立駅舎を再築することで、市の魅力ある商品の販売促進や、新たな商品開発につながった。また、旧国立駅舎内の「まち案内所」での販売が、まちの魅力発信となるため、新たな商品が生まれた。	-	旧国立駅舎および高架下市民利用施設の建設による市民交流の場や市民生活・活動を支える施設ができたことで、新たなイベントの開催につながった。
	旧国立駅舎再築事業(観光交流センター)	◎		◎	
	高架下市民利用施設整備事業	-		◎	
提案事業	旧国立駅舎再築事業(展示スペース)	◎	-	○	
関連事業					

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	新たな魅力ある商品を開発して販売することで、国立ならではのライフスタイルや国立らしさのブランドを市内外に発信していく。	駅前の自転車駐車場をフル活用し、放置自転車の削減に努めることで、駅前景観のさらなる向上を図っていく。	旧国立駅舎や高架下市民利用施設を活用し、市内外から集客できる魅力あるイベントを実施していく。
-------	---	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標○			指標○			指標○			指標○		
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類									
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、
 指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、
 指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、
 ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
 明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)			
------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
国立駅周辺地区都市再生整備計画事後評価庁内検討会	関係各課係長級職員(国立駅周辺整備課、道路交通課、まちの振興課)	令和2年8月14日	国立駅周辺整備課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
地域の魅力発信やにぎわいを創出するための情報発信施設がない。	旧国立駅舎(観光交流センター・展示スペース)を建設したことにより、地域の魅力発信やにぎわいを創出するための拠点ができた。	更なる地域の魅力発信やにぎわい創出できるように進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・今後地域がより活性化するように、更なる地域の魅力発信やにぎわいを創出するために、どのような施策やイベントを推進してくか。 ・行政だけでなく市民や市民団体とどのように、まちの魅力を出せるように推進していくか。 ・この施設を活用してどのように、まち全体を回遊するようなイベントや魅力発信を推進していくか。
駅前の放置自転車がまちの景観を阻害する要因となっている。	国立駅前に自転車駐車を建設したことにより、駅前の放置自転車の削減することができた。	特になし。	
市民が交流したり、気軽に憩える楽しみが享受できる施設がない。	旧国立駅舎(観光交流センター)・高架下市民利用施設(地域交流センター)を建設したことにより、市民が交流したり、気軽に憩える、楽しみが享受できる施設をつくった。	特になし。	
—	—	—	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	まちのにぎわいの持続	新しいイベントの企画及び実施、地域の情報発信の強化	旧国立駅舎管理運営事業 観光促進事業
	放置自転車放置率の持続	放置自転車を抑制する市民への啓蒙、周知及び徹底した放置自転車の撤去	自転車対策事業
	市民が交流したり、楽しめるイベントの継続	新しいイベントの企画及び実施	—

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	更なる地域の魅力発信とにぎわい創出	持続的なまちづくり体制を維持していく。	旧国立駅舎運営連絡会 住民参加で国立駅南口の広場的空間の検討
	—	—	—
	—	—	—

フォローアップ又は次期計画等

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

- 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
- 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
- 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
- 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
- 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	市の歴史や魅力に関連した商品の種類	個	33	H26	37	H31	確定 ●	42	○	あり			
指標2	自転車の放置率	%	1.8	H26	1.5	H31	確定 ●	0.2	○	あり			
指標3	市民交流を目的にしたイベント回数	回	0	H26	12	H31	確定 ●	25	○	あり			
指標4	—			H		H	確定			あり			
指標5	—			H		H	確定			あり			
その他の数値指標1	—			H			確定						
その他の数値指標2	—			H			確定						
その他の数値指標3	—			H			確定						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	新規事業を効果的に展開したため、すべての数値で成果を達成できた。	-
	うまく いかなかった点	-	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	指標として、算定しやすく、効果的な指標を設定したため目標・事業との整合性も図れている。	-
	うまく いかなかった点	-	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	駅前報告会では、平成28年度から令和元年度まで延べ4300人を対象に丁寧に報告している。市の事業をしっかりと市民に説明してきている。	-
	うまく いかなかった点	-	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	採用している指標は非常に明確でわかりやすい指標を設定しているため、振り返りや今後の事業を評価するうえで、効果的に確認できると考える。	-
	うまく いかなかった点	-	
その他	うまくいった点	-	-
	うまく いかなかった点	-	

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

特になし。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和2年10月16日～11月4日	令和2年10月16日～11月4日	担当課への郵送、持参、FAX、電子メール	国立駅周辺整備課
広報掲載・回覧・個別配布	広報誌に市のホームページで原案を公表している旨を掲載	令和2年10月16日発行 市報くにたち2020年10月20日号	令和2年10月16日～11月4日		
説明会・ワークショップ					
その他	担当部署の窓口	令和2年10月16日～11月4日	令和2年10月16日～11月4日		

住民の意見	特になし。				
-------	-------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	堂免 隆浩 一橋大学 総合社会科学 教授 後藤 玲子 一橋大学 経済研究所 教授	視 察: 令和2年12月22日	国立駅周辺整備課	国立市都再生整備計画 評価委員会設置要領	独自に設置
その他の委員	国立市商工会 会長	委員会: 令和2年12月22日			

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って、事後評価が実施されたことが確認された。
	成果の評価	指標による評価は適正に実施され、評価結果が妥当であることが確認された。
	実施過程の評価	持続的なまちづくり体制の構築として説明した旧国立駅舎運営連絡会は、旧国立駅舎だけでなく、国立駅周辺についての意見交換があると良い。
	効果発現要因の整理	くにたちStyleの商品選定や、自転車放置率の改善の要因についての質問・議論があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案の公表方法は妥当であると認められた。しかしながら、メール回答も可能であったにもかかわらず、なぜ市民から意見の提出がなかったか、が話題になった。市報やホームページで周知したが、ホームページは新着情報でなくなると、階層が深い場所であったことが原因かもしれないと答弁した。
	その他	公共施設は、今回の補助対象ではなかった部分も合わせて一体的なものである。事業評価とは別に、継続して機能強化等の検証を続けてほしい。特に、繊細な福祉サービスをオープンにするのか、控えめにするのかといったバランスは今後の課題かもしれない。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・公共空間は規制やルールがあるものだが、規制のみでは個性を作り出せない。しかし、規制を緩和した結果、起こり得る問題を運営でどのようにコントロールするかを常に考える必要がある。市民と協働しながら、緩和できるところは一時的にでも緩和する、ということがうまくできると、个性的な市としての可能性を出せる。その仕組み作りが非常に大事であり、システムとして継続させていく必要がある。 ・ソフトの部分強化していくことが大事である。ソフトを育てるには、常に新しいものを生み出していけるような土壌・風土が必要である。商品を置ける場所を作っても、置く商品が無ければ宝の持ち腐れになってしまう。
	フォローアップ	今回の指標に対するフォローアップの必要はないが、「今後のまちづくり方策」は継続的に見直していけると良い。
	その他	・矢川・富士見台(谷保)・国立駅周辺のそれぞれでまちづくりがあるが、バラバラではもったいない。福祉有償運送の観点においても、3つの地域がより繋がってほしい。 ・以前からある回遊性が課題であり、谷保・矢川を巻き込めると良い。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	市と商工会で進めている、「Bizモデル」として東京都内で初めての取り組みであるKuni-Bizに期待している。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
-	-	-
-	-	-

有識者の意見	-
--------	---

都市再生整備計画(第3回変更)

くにたちえきしゅうへん
国立駅周辺地区

東京都 くにたち 国立市

令和 2 年 3 月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	東京都	市町村名	くにたち 国立市	地区名	くにたち えきしゅうへんちく 国立駅周辺地区	面積	18.9 ha
-------	-----	------	-------------	-----	---------------------------	----	---------

計画期間	平成	27	年度	～	平成	31	年度	交付期間	平成	27	年度	～	平成	31	年度
------	----	----	----	---	----	----	----	------	----	----	----	---	----	----	----

目標

大目標：気軽に憩い、交流することで活気を生み、歴史や地域の魅力を市内外に発信し、景観を大切にしたい国立らしさに溢れたまちを実現する。

目標：市全域の歴史や地域の魅力を市内外に広く発信し、愛着と魅力のあるまちを実現する。

目標：国立らしい景観を活かした美しいまちなみを実現する。

目標：気軽に憩え、交流し、楽しみが享受できる空間をつくり、豊かに暮らし、交流することで活気が生まれるまちを実現する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

地区の成り立ち

国立駅周辺地区は、市の北部に位置し、学園都市として発展してきた街である。大正から昭和にかけて東京で行われた郊外型の住宅地開発の一つとして開発され発展してきたが、駅前広場や大学通り等といった街路としての都市軸を骨格として、暮盤の目のようなグリッド状の道路が張り巡らされた英国の田園都市と米国の近代都市計画が日本国内で融合した稀有な都市計画の事例である。また都市軸からはランドマークである駅舎が臨めるなど、他の郊外住宅地には見ることのできない都市軸とランドマークが一体となった特徴的で魅力的な景観を形成する地区として発展してきた。ランドマークとしての駅舎は文化的なまち国立をイメージする意匠で玄関口として広告塔という大きな役割を開発当初から担い、また民間が建設した請願駅という全国的にも稀有な事例でもある。戦後モータリゼーションの進展後もこの都市軸とランドマークが一体となった特徴的な構造は大きく変化しておらず、その景観は駅舎とともに国立を代表する顔として、またシンボルとして多くの市民から親しまれ愛され続けられてきており、駅舎、駅前広場、大学通り等は国立市の歴史を語る上で欠かすことのできない市民にとって無くてはならないものとなっている。また本地区は国立駅の北側と東側で、国分寺市と接しており、国立駅周辺の商店街は国立市民の他、国分寺市民にも多く利用され、国立市の商業拠点、市民生活の場として発展してきた地区である。

地区におけるまちづくりの現況

JR中央線の連続立体交差事業の工事開始前まで利用されていた旧国立駅舎は、国立市のシンボルとして地区内の特徴的で魅力的な景観を形成する重要な役割を担ってきた。また平成18年に「東京都国立市指定有形文化財・建造物」に指定されるなど歴史的にも希少価値が高い建物である。しかしながら、連続立体交差事業の支障物件となり、解体されたことで市のシンボルが失われ、国立らしい特徴的で魅力的な景観が損なわれている。また、これまで継承してきた都市軸とランドマークが一体となった特徴的な構造が失われた。

旧国立駅舎は市の成り立ちに深く関わりのある建物であり、多くの市民から親しまれ愛され続けられてきた市民にとっては無くてはならない建物である。現在は解体された部材を一時的に保管し、将来の再築に備えている。

国立駅は1日あたり約10万人の利用者があり、地区内は市民や来訪者が数多く行き交う場所にも関わらず、地区内には市の歴史や地域の魅力の発信や、賑わいを創出するための情報発信施設がなく、広く市内外に情報発信する機会を逸している。

本地区における放置自転車は市内の他の駅に比べて多く、地区内の良好で美しい景観を損ねる要因となっている。

国立駅南口第1自転車駐車場は駅直近に位置していることから、多くの市民から利用を要望されており、慢性的にキャンセル待ちが発生している状況にあり市民からは逸早い拡充が求められている。

本地区では集会所が1箇所しかないなど、市民交流の場や市民生活・活動を支える施設が不足しており、円滑な市民活動に支障を来している。

JR中央線の高架化を契機に南北のまちが一体化したことにより、南北間の新たな交流機会創出の場、市民や来訪者が気軽に憩うとともに楽しみが享受できる場が望まれており、地区内における市民生活・活動の充実が求められている。

このように特徴的な市街地構造と魅力的な景観を持ち、「文教都市くにたち」として育まれ、市民生活の中心となってきた国立駅周辺地区について、JR中央線の連続立体交差事業を契機として様々な課題を解決し、より魅力的な街としていくため、長年にわたって議論が行われてきているところである。（検討会等の開催状況については「その他」を参照のこと）

課題

- 文化財で歴史的にも希少価値が高く、市の成り立ちや歴史に深い関わりのある旧国立駅舎が解体されたことで、これまで継承してきた都市軸とランドマークが一体となった特徴的な構造が失われた。また、市民や来訪者が数多く行き交う場所にも関わらず、地区内には地域の魅力の発信や賑わいを創出するための情報発信施設がない。
- 国立市のシンボルであり市民から愛され続けられてきた旧国立駅舎は、地区内の特徴的で魅力的な景観を形成する重要な役割を担ってきたが、連続立体交差事業の支障物件となり解体され、国立らしい景観が損なわれている。また市内の他の駅周辺エリアと比べ放置自転車が最も多く、駅前放置自転車が地区内の良好な景観を阻害する要因となっている。
- 国立駅周辺地区内においては、高架化を契機に南北のまちが一体化したことにより、市民の新たな交流機会創出の場や気軽に憩え、楽しみが享受できる空間が望まれているが、市民生活・活動を支える施設が不足している。

将来ビジョン(中長期)

- 国立駅周辺まちづくり基本計画では、国立駅周辺地区のまちづくりの目標として、「市民が集い、来訪者を迎え、にぎわいと交流のあるまちづくり」、「人にやさしい、安全で安心な環境づくりや環境負荷低減のまちづくり」、「駅周辺の景観とシンボルをいかしたまちづくり」、「個性的なまちなみをいかした回遊性のあるまちづくり」、「出会いと発見、文化を発信するまちづくり」を掲げている。
- 国立市都市計画マスタープランでは、国立駅周辺地区を国立市の中心となる都市拠点として位置づけ、利便性が高く、活力に富んだ商業・業務機能の集積を図るとともに、「文教都市くにたち」にふさわしい景観に優れた緑豊かな都市空間を創出するとしている。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
指標：市の歴史や魅力に関連した商品の種類	個	市の歴史や魅力に関連した商品の種類を調査し計測する。	市全域の歴史や地域の魅力を発信する情報発信施設を整備し、市民や来訪者に周知することで、地域の活性化を図り、関連商品の種類増加を目指す。	33	H26年度	37	H31年度
指標：自転車放置率	%	地区における自転車等の放置率を都発の統計資料である「駅前放置自転車の現況と対策」をもとに計測する。自転車放置率 = (放置自転車の台数) ÷ (乗入台数) × 100とする。	自転車駐車場の整備により、放置率の減少を図り良好な景観を阻害する要因である放置自転車を減少させ、国立らしい景観を形成する。	1.8	H26年度	1.5	H31年度
指標：市民交流を目的にしたイベント回数	回	地区内の交流スペース、会議施設等で行われる市民交流を目的としたイベントの回数を調査し計測する。	市民活動の場となる交流スペース等を整備することにより、市民交流の機会増加を図り、市民交流を目的にしたイベント数の増加を目指す。	0	H26年度	12	H31年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針1：市全域の歴史や地域の魅力を発信し、愛着と魅力のあるまちを実現する。 ・市の文化財に指定した歴史的に希少な文化財を再築し、市の歴史を回復する。 ・市全域の歴史や地域の魅力を市内外に向けて広く発信する。	地域創造支援事業(提案:旧国立駅舎再築事業(展示スペース))、高次都市施設(基幹:旧国立駅舎再築事業(観光交流センター))
整備方針2：国立らしい景観を活かした美しいまちなみを実現する。 ・国立市のシンボルを活かしたまちなみを実現する。 ・放置自転車を減少させ、良好で美しいまちなみを実現する。	地域創造支援事業(提案:旧国立駅舎再築事業(展示スペース))、高次都市施設(基幹:旧国立駅舎再築事業(観光交流センター))、地域生活基盤施設(基幹:国立駅南第1自転車駐車場)
整備方針3：気軽に憩え、交流し、楽しみが享受できる空間をつくり、豊かに暮らし、交流することで活気が生まれるまちを実現する。 ・気軽に憩え、休憩できる空間をつくり、市民生活の充実を図る。 ・交流し、楽しみが享受でき、市民生活・活動を充実させる。	高次都市施設(基幹:旧国立駅舎再築事業(観光交流センター))、高次都市施設(基幹:高架下市民利用施設整備事業)

その他

国立駅周辺のまちづくりについては、古くは平成2年度から国立駅南口の市街地整備等に係る検討から始まり、その後も様々な形で検討を重ねてきた。

平成11年度(1999年度)：「国立駅周辺プラン作成検討会」(学識委員で構成)を設置し、旧国立駅舎の保存の方向、将来像の実現に向けた市民参加のまちづくりに関する提案等が行われた。

平成13～14年度(2001～2002年度)：「国立駅周辺まちづくり計画検討委員会」(庁内職員で構成)を設置し、鉄道南北を結ぶ道路、国立駅南北駅前広場、国立駅南口公共施設等用地、高架下活用等について検討した。

平成15～16年度(2003～2004年度)：「国立駅周辺まちづくり検討会」(公募市民、団体推薦、学識の各委員で構成)を設置し、ワークショップやインタビュー等も行いながら、市民参加によるまちづくり計画を検討した。

平成17～18年度(2005～2006年度)：「国立駅周辺まちづくり懇談会」(学識委員、国立駅周辺まちづくり検討会委員、国立駅舎保存の会で構成)を設置し、連続立体交差事業により整備される新しい駅舎のデザインについて検討した。

平成19年度(2007年度)：平成19年9月に「国立駅周辺まちづくり基本方針」が策定された。それを踏まえ、平成20年3月に「国立駅周辺まちづくり推進協議会」(公募市民、団体推薦、学識の各委員で構成)が「国立駅周辺まちづくり基本計画(案)」を提出した。

平成21年度(2009年度)：平成21年11月に「国立駅周辺まちづくり基本計画」を作成、公表した。

平成22年度以降(2010年度以降)：「国立駅周辺まちづくり会議」(公募市民、団体推薦、学識の各委員で構成)が設置され、国立駅周辺まちづくり基本計画を踏まえ、まちづくり、施設計画の具体化検討等を進めている。

